



それいゆ 広報

Vol.125

- 医療法人同仁会
- 介護老人保健施設 それいゆ TEL0577-35-3030
 - 桐生クリニック TEL0577-35-3880 FAX(共通) 0577-35-3063
 - 折茂医院 TEL0577-34-5025
 - それいゆ訪問看護ステーション TEL0577-37-5260
 - ヘルパーステーション それいゆ TEL0577-37-3360
 - 病児保育室プティそれいゆ TEL0577-35-2525
 - ケアプランセンター それいゆ TEL0577-35-3770
 - ショートステイ それいゆ TEL0577-35-0710
 - シャロン・ド・それいゆ TEL0577-34-5026
 - デイサービスセンター へれる TEL0577-36-7077
 - Dr.Orishige ビオメゾン TEL0577-37-0800
 - デイサービスセンター れざま TEL0577-37-5666
 - りあん・ド・それいゆ TEL0577-32-8166

福祉施設見学交流会

高山市立北小学校五年生



去る十一月二十七日、高山市立北小学校の五年生三十二名が生活科の一環として、それいゆに訪問してくださいました。

小学生の皆さんが来訪されるのは約十年ぶりという事もあり、スタッフも楽しみにしていました。しかし核家族が多い現代において、お年寄りとの交流に小学生が馴染めるかの心配もありました。

予定時刻の十分前には準備も整い、いよいよ開始です。まずは子供たちによる合唱です。『ありがとうの花』を体を揺らしながら歌ってくれました。上手にピアノも弾いてくれました。利用者様を見ると、笑顔の方、手をたたいている方、そして涙流す方も。その様子をみてスタッフも涙。

二曲目は『ちいさい秋』を持参して下さった歌詞カードを見ながら一緒に歌いました。しかし、一緒に歌う事よりも子供たちの歌う姿を見るのに一生懸命でした。曲が終わると大きな拍手が沸き起こりました。

続いてハグループに分かれ、各テーブルでのレクリエーションです。子供たちはたくさんの準備をしてきてくれました。手作りの福笑いや紙芝居、かるたやしりとりもしました。けん玉や手品を披露してくれる子もいました。「わーっ」と手をたたいて喜んでみえます。

開始前の「馴染めるか不安」なんて心配は無用でした。耳の遠い方には大きな声で、かるたの取れない方に「こごだよ。」優しく教え、取ってあげています。

写真を撮ろうと近づくと、「嬉しいなあ。可愛いなあ。ありがたいなあ。」ボロボロと泣いてみえる利用者様も

みえました。

だんだんと終わりの時間が近づいてきます。引率の先生から「今でおしまいにしてね」声をかけられる子供たち。かるたをしていたテーブルの利用者様から「最後までやりたいな」との声も上がります。時間の都合でごめんね、と伝えると「私、二枚しか取れなんだで負けや」「あの人は六枚やで一番やな」次々に声が上がります。

これでおしまいかと思っていると、子供たちは利用者様の顔をよく見て似顔絵を書き始めました。先ほどまで大きな声で喜んでいた利用者様の顔が真剣に。「もっと笑って」と伝えると「緊張するわ」とまた笑顔。その似顔絵は特徴を捉えておりとっても上手です。最後にプレゼントしてくれました。「私こんなに若くていいの？」嬉しそうに笑ってみえます。そして最後にみんな記念写真を撮りました。

とっても素敵な時間でした。何年も関わらせて頂いているにも関わらず、初めての表情を見せて頂きました。改めて、レクリエーションの意義を考えるきっかけとなりました。

元気なパワーは、利用者様の笑顔につながります。私たちスタッフも小学生に負けないように元気なパワーを与えられるようになりたいと思います。

後日、参加できた利用者様が「良かったよー」と見る事ができなかった方にお話ししました。心に残る介護、私たちも見習いたいです。

追伸・翌日感想を書いたお手紙を持ってきてくれました。またまた涙しながら読んでいる利用者様を見て涙するスタッフでした。



第三回介護教室

『簡単！美味しい！手作りおやつと食中毒予防』

♪ずんだパフェで初夏を感じよう♪

折茂医院 管理栄養士 森 奈緒子



七月七日(日)に第三回介護教室で「手作りおやつと食中毒予防」を開催しました。当日は六名様に参加して下さいました。最初に食中毒予防についてお話ししました。

食中毒とは食品に起因する下痢、腹痛、発熱、嘔吐などの症状が出た時の総称です。食中毒の細菌は、食品によって発生する種類が違います。また細菌によって死滅する温度と時間も違います。食中毒になりやすい料理は、水分が多い物や中までしっかりと加熱できないものです。講習会ではどちらが食中毒になりやすいでしょうか？と簡単なクイズも出しました。

食中毒を予防するためには、付けない、増やさない、殺す事が大切です。家庭で



できる食中毒予防は、安い物が済んだらすぐに冷蔵庫に入れる・肉、魚を切った包丁、まな板は洗って熱湯消毒する・調理中もこまめに手を洗う・加熱を十分にする・残った食品はきれいな容器で保存する等です。

手作りおやつでは「ずんだパフェ」を作りました。ずんだとは、枝豆をすり潰したものです。白玉だんごを作り、枝豆をミキサーにかけてクリームを作っていたきました。お子様も参加されていたので、楽しく和気あいあいとできました。七夕の日に開催したので、星形のオレンジ寒天を作りトッピングをしました。皆様に美味しく召し上がっていただけ、良かったです。

冬場はノロウイルスといった食中毒が流行りますので、帰宅後、食事前には必ず石鹸での手洗いに心がけ、生力キを食べる時も気をつけて、食中毒予防をして下さい。



第四回介護教室 『尿もれなんて怖くない!!』

最新パンツと基本のオムツ・パットの使い方

三階介護主任・おむつファイター三級

四階介護主任 荒井千波 坂口育子



十月二十七日(日)老健それいゆ一階ホールにて、「尿もれなんて怖くない!!」と題して利用者様や御家族様が参加される中、第四回介護教室を開催しました。

当日は、パワーポイントを使って説明し、皆様が真剣に話を聞いて下さったり、メモを取られる御家族様もおられました。

はじめに排尿に対する困り事や、尿は私たちの身体を健全に保つ為に大きな役割を果している事、また尿を排出する時のしくみを見て頂きました。

尿失禁についてはいくつかの種類があり、治療として尿道・膣・肛門の周りを締める筋肉を鍛える訓練や生活指導として水分の取り過ぎ、肥満便秘を改善する事で尿失禁の予防に効果がある事を学びました。

「体験しよう!!」では、尿取りパットと生理パットの吸収の違い、色々なパットの種類を見て頂くなか、「家のお母さんにはこれがいいかも」と安心した様子が見られました。

「履いてみよう!!」では、実際に施設で使用している紙パンツを皆様と一緒に履き心地を体験をしたり、人形を使って正しい紙おむつの当て方を見て頂きました。

最後に尿もれなんて怖くない!!

- ・自分の尿もれタイプを知る
- ・自分に合った排泄ケア用品を利用
- ・日常生活習慣の改善
- ・体操
- ・必要に応じ医師に相談

とまとめてみました。

今日のテーマである尿もれは、尿失禁で実際に悩まれている方も多くいると聞かれます。それに対する対処法とケア用品の紹介や紙オムツからの尿もれがどうしておきるのか？と勉強しました。

今回の介護教室を通して、御家族様も家庭での排泄の悩みを聞かせて頂き、少しでもお役に立つ事ができ、「またいい話があったら教えてなあ」と気軽に声を掛けて下さり、嬉しく思いこれからも御家族様や地域の皆様と交流を深め、信頼を築いていきたいと思えます。次回もお気軽に御参加頂けるよう心からお待ち申し上げます。

「体験しよう!!」では、尿取りパット



第二十九回 全国病児保育研修大会 in いわて

今年の全国病児保育研究大会は七月十四日、十五日の二日間、岩手県マリオス（盛岡市民文化ホール）をメイン会場とし、医師や大学教授、保育と看護の専門家などを講師に講演やワークショップが行われました。

テーマは、「少子化時代の病児保育（様変わりする子育て環境）」です。虐待や育児放棄など、社会的な負の背景も踏まえた病児保育の役割。子育て世代に本当に求められる親支援とはなにか、深く考えさせられた二日間となりました。

病児保育とは「保護者の就労のために病児のお預かりをするところ」ではありません。病気の子どもにとって最適な保育と看護を提供することにより、「たとえ病気の時であってもその児の発達のニーズを満たすこと」だと定義されています。それを達成するための育児支援、結果としての就労支援が病児保育です。



スタッフには専門的な保育と看護の知識に裏打ちされた観察力、豊かな感受性と深い洞察力を持って児を把握し、一人ひとりに適切な対応をすることが求められます。これは当然、研

修に参加するだけで習得できるものではありません。一人ひとりが日々の暮らしの中で、様々な人生経験の中で、人間力を高める努力を意識したいと考えます。

親にとっても子にとっても一番辛くて不安な病気の時の居場所である病児保育。だからこそホッと安らぐ場になりたい。育児の辛さも素晴らしさも、共に語れる、育児の並走者として寄り添いたい。そんな思いを新たにした研修となりました。

参加させていただきありがとうございました。



学習療法指定マスター研修に参加して

通所リハビリ学習療法マスター 長瀬 憲

十一月にそれいゆで開催された『第四回学習療法指定マスター研修』に参加させていただきました。学習療法センターから三名の方を迎え当施設、近隣の施設から七名のマスターの方が参加されました。

学習療法マスターとは、施設内において、正しく楽しい学習療法が行われ、ケアに活かされる状態へと導くリーダー的な存在です。

『いい介護いい施設を目指して』学習療法を活かして伝えることをテーマに、学習療法を活かすためのサイクルの活用や九州の施設での実践事例を参考に自施設に「活かして伝える」や「今後のアクションに繋げる」などグループ討議にて意見交換し、取り組みや情報共有ができた大変有意義な研修となりました。

その中でも印象的だったのは「自分達がやっていることを伝えていく」方法として掲示物（ポスターなど）で学習療法の様子や研修内容をご家族に伝えることでした。

今回の研修から学習療法によって学び、交流する楽しさを体感していただけるよう、他施設・多職種と連携し地域の方々に学習療法をもっと知ってい



ただくための介護教室の開催やWeb報告書を使って、ご家族様に検査結果を伝えていくこと。更に現状の学習の仕方に満足せずに新たな「気づき・記録」を大切にしながら『いい介護いい施設を目指して』利用者様と共に学習療法に携わっていききたいと思っております。

杉山修ミニコンサート

8月8日



○～♪、△～♪、□～♪
みんなでうちわも作りました！



慰問に来てくれましたよ～♪

生時記

大正琴慰問演奏会

10月4日



琴生流菊八重会の皆さん
大正琴の音色で心和みます

敬老会 9月16日



唄亭一座の皆さんによる民謡コンサートで
楽しいひととき



百歳のお祝いです

喫茶らんぷでコーヒータイム

10月23日、11月13日



近所の喫茶店へ気分転換に
お出かけです



文化祭作品展示

11月7日～13日



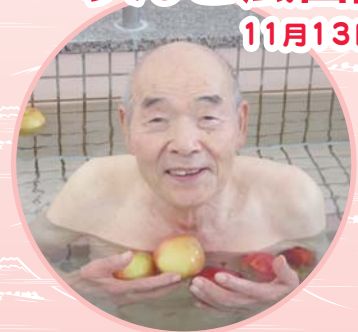
来年の干支ですね



力作揃いです

季節のイベント 「りんご風呂」

11月13日



甘～い香りで癒されます

第十一回
しざみひだメデイケアガーデン文化祭
 ～万葉へ、想いを馳せてまったりと～

令和元年十一月十五日(金) お茶席

十六日(土) おが粉粘土で作りましたよう アロマの置物

十七日(日) 高山室内楽団のみなさまの演奏

作品展示：十一月十五日(金)～十七日(日)

新元号令和になり、万葉へ想いを馳せながら「味」「香」「音」を楽しんでいただけるような文化祭を企画しました。
 お茶席ではまったりとお抹茶を楽しんでいただき、おが粉粘土作りでは松ぼっくりや木の実を飾りアロマが香る素敵な置物が完成しました。
 高山室内楽団のみなさまの演奏は、プロのバイオリン奏者の方も加われ本格的な弦楽器の演奏で耳慣れた曲目の数々を堪能しました。



嚥下障害勉強会 ～新しい嚥下障害の考え方～

十月二十四・二十六・三十日の三日間にわたり、医療法人三継会《フアインシニアけやき》施設長井出浩希様を講師に招き、嚥下障害について同仁会主催勉強会を行いました。(第一回：レザミひだ多目的ホール、二・三回…介護老人保健施設それいゆ一階、デイルーム)

現場でケアの提供に関わるスタッフはなかなか専門に特化した外部研修に参加することは難しく、今回は初めて同一研修を三回連続で法人内にて実施。

回を重ねる毎にとっても良い研修を受けることが出来たと好評を博し、参加者が増え、総勢百五十四名が受講できました。また、井出様のご厚意で第二・三回に実技指導も実

施してくださいました。

嚥下障害は誤嚥事故に繋がるリスクも含まれることから、そのシステムを学ぶことはとても大切なことです。井出様が持参された咽頭部が透明でその構造が可視化できる模型(透明咽頭喉頭モデル)や様々な動画を使った講義で嚥下障害の合併症・なぜ食べられなくなるのか・安全に食べるためになど、基本に立ち返り、更にリスクを軽減する新たな取り組みを学ばせていただきました。

習得した理論をより実践に役立つものにつなげるために、実践編の研修も行います。



編集後記

表紙でお伝えしたように、十一月末北小の子ども達がそれいゆにとっても大きな幸せを運んでくれました。子ども達の中には今回はじめて高齢者の方と接する子もいましたが、利用者さんにとっても楽しんでもらえるか、一生懸命内容を考えカードなど制作し、その成果を披露してくれました。

歌にゲームに似顔絵まで描いてとても盛りだくさんの内容に瞬間に楽しい時間が経ったようでした。今回の訪問を企画・指導にあたって下さった先生方、楽しませてくれた児童の皆さん、たくさん元気と笑顔をいただけただけで本当に感謝しています。ありがとうございました。

それいゆのみなさん
 昨日は、ありがとうございます。
 みなさんと遊べて楽しかった。
 お年寄りといっしょなのは初めてだったけど楽しかったです。また、体に気を付けて長生きしたい。
 さい、れんて